

## INTERVIEW



男子三日会わざれば  
刮目して見よ

加来耕三

安定したかつたら、三つの穴を掘れ

古流剣術「東軍流」の宗家に育つたこともあって、若い頃は剣術の参考になるものは貪欲に読みました。

特に勝海舟の『氷川清話』は、中学生のときに読んで「なるほど」と思いましたね。歴史上の人物の中では、勝海舟が一番長い交際(ゆき)かもしれません。

大学時代はほとんど学校に通わず、ときにオランダやベルギーで合気道を教えたりしていました。でも、卒論を書かないと卒業できない…。私は昔から傾向と対策には自信があるて、だから卒論も、3年生のときにさつさと書いたんです。テーマは交際の長い勝海舟でした。卒論を書くにあたっては、資料を読み漁りました。中でも『氷川清話』の解説者であり、「勝海舟全集」を監修されていたお茶の水女子大学教授の勝部眞長先生の



著書は、ほぼ読破。そこで、大学に提出する前に、勝部先生にぜひ卒論を見ていただこうと直接伺ったところ、「よく書けているね」と一言、お褒めの言葉をいただきました。大学の先生にもその旨を伝えたところ、「発で卒論は合格しましたよ。勝部先生とは卒論の一件があつて以来、長く」指導いただきました。泊まり込みで『勝海舟全集』の編集のアルバイトをさせていただきたい、「今後のために」と出版社も紹介してもらいました。

人生、どこで何が起こるかわかりませんが、思い立つたら躊躇せずに行動することは本当に大切です。

私は性格的に勤め人、サラリーマンには向いていなかつたので、大卒業後は就職せず、作家としてデビューしました。司馬遷の史記の中に「生涯、安樂に暮らしたかつたら三つの穴を掘れ」という逸話があります。三輪車と同じで、一つ、二つでは不安定、三つあると物事は安定することの例え。この言葉にならい、私も歴史を主軸に、武道、漫画（原作）の三つの分野を掘り下げていくことになりました。それぞれの分野に師匠はいたものの、作家としての経験はなかったので、当初は本屋や図書館に通り詰めて知識をインプットしていました。若い頃は、お金はなくとも、時間はたっぷりありましたからね。

まず本屋で自分が生涯お目にかかるないような、関心のない雑誌をあえて手に取るんです。例えば、建築土木の雑誌をバラバラとめぐり、全体像を把握します。そして、そこから「自分だったらどんな面白い記事が書けるか」



古流剣術タイ捨流の修行時代。42歳で免許皆伝

「漫画の原作で行こうか？歴史？それとも武道の話題と絡めようか？」などと、頭の中で構成をシミュレーションしていくんです。ある程度内容が固まつたら、実際に図書館に行って、さらに調べていく。

こうした突飛なトレーニングを、20代の頃はよくやっていました。

### 知性を身に付けるには読書が一番

中国の古典からアレンジして、私がよく使う言葉に、「非常の才」というのがあります。平常時に役立つ人間は、非常時に役立たない、という意味です。非常の状態である今の日本には、非常の才が必要だけれども、残念ながら、非常の才を見極めることのできる上司が、なかなかいないのではないでしょうか。なぜなら、上司も平常時に役立つ人だから…。

そのため有能な若者達は、個人で独立するか、外資系に流れているのが現状です。

変革の時代を乗り越えるための「非常の才」を身に付けるためには、読書するのが一番です。本は奇跡を呼び起こします。一冊の本からアイデアが突然ハツと浮かぶこともあるでしょう。その感動を与えてくれるのが本なのです。おかげさまで、私も本によって人生が変わりました。

『三国志』に「男子三日会わざれば、刮目して見よ」  
かみむく

解説者として出演中の  
BS-TBS『関口宏の一番新しい中世史』、  
収録時の様子





## コミック版 日本の歴史（83巻） 戦国人物伝 黒田長政

加来耕三 企画・構成・監修  
後藤ひろみ 原作 小林裕和 作画  
ポプラ社 1210円(税込)

孔子は『論語』の中で「温故知新」——過去をたどり、学んで消化して、未来に対する新しい思考、方法を見つけるべきだ、と語っています。漫画だから読みやすい本書を通じて、ぜひ歴史の世界へ一歩、踏み込んでいただければと思います。

(加来)

ポプラ社 編集部より



ポプラ社

二人の天才軍師・竹中半兵衛と黒田官兵衛から教えを受けた黒田長政。偉大な師に対し、葛藤を重ねながらも成長していく長政をみずみずしく描いています。

という言葉があります。人は、別れて三日で大いに成長することもあるので、次回会うときは違う目で見なければいけませんよ、という意味です。吳の武将・孫權が、部下である呂蒙に「お前は武はあるけれども、学がない」と、無学を残念がり、学問を勧めました。そう言われた呂蒙は素直に現実を認め、読書をした結果、見違えるほど立派な名将に成長した、ということです。

若い皆さんも、豊かな人生を歩むために、納得のいく人生を歩むために、ぜひ本を読んでください。

読書をすると、人相も考え方も変わりますよ（笑）。

歴史家

作家

加来耕三→[選書 46-47]

